**私達の歴史**

１９７１年の創立以来、気持会はサンフランシスコの歴史的な日本町（ジャパンタウン）に非営利団体として設立しました。きもちという日本語訳は、気持（フィーリング）という意味を表しています。私共の団体では、先輩たち高齢者へ、尊敬の念、感謝、愛を、私共の提供するサービスを通じて表し、それぞれの年代の人々がプライドをもち、支援し、独立して年を重ねることが出来るように努めています。

全ては、日系三世が日系一世をサンフランシスコ市ジャパンタウンで支援し始めたことから始まりました。日系三世は、一世達の手伝いをしている際に、言葉と文化の壁により、日系一世達が本来なら受けられるサービスを、言葉の壁により受けられずにいることに気づいたのです。日系三世達は、様々な情報提供や、高齢者が政府に対し、福利厚生を受けられるよう申請するお手伝いをしたり、健康保険の申請手続きや、送迎のお手伝い、歩行補助など高齢者が安心して外出できるよう様々なお手伝いをしてきました。

これら三世若い世代の、熱心な日系一世への取り組みは、気持会が様々な形で高齢者のお手伝いを行う基盤となりました。

企画者、参加者そしてボランティアが集うことのできる気持ラウンジは、当初1581Webster St.,に位置するWebster St.の橋にありました。ラウンジの役割は、日系一世達が休息を得たり、コミュニティの最新ニュースや、友情を育む場、そして、お茶を飲んだりすることのできる憩いの場となっていました。ラウンジが人気を得て認知度が上がってきたころ、もう少し広い規模で活動を行える場が必要となりました。サンフランシスコの日本町は、アメリカ全土にある日本町の中で３つしかない中のひとつであるため、ボランティアとスタッフは理想的とは言えない場所でも、気持会の基盤とミッションを守るために活動を続けて来たのです。

年々変化を遂げる中で、高齢者の人口や、新しいプログラムへの資金調達、ニュートリッション、送迎、ソーシャルサービスを開設することが出来ました。１９７４年、気持会は、助成金申請をし、カリフォルニア州のDepartment on Agingから気持会の貢献を認められて、日本食の温かい食事を高齢者へ提供する許可を得ることが出来ました。

1983年、気持会は、気持ホームを１５３１Sutter St. に設立するプロジェクトを完成させました。２０１２年には、気持会はサンマテオ地区に用地を購入し、サンマテオ地区の高齢者へ居住施設とレスピットケアプログラムを２０名の高齢者へ提供出来、デイケアサービスを４０名の高齢者へ提供出来る施設を設立しました。２０１６年、大規模な改修を経て、気持サンマテオは、歩行不能な高齢者を受け入れることが出来る介護施設としてオープンするためのライセンス承認を受けました。２０１７年には、サンマテオ地区の高齢者に宅配の食事を提供するために、JA Community Foundationから資金が授与されました。

**私たちのミッション**

気持のミッションは、文化的背景を尊重したプログラムとサービスを高齢者とその家族の皆さんに提供し、出来るだけ尊厳を尊重した生活を続けることができるように、日系アメリカ人と日本語を言語とする人々のコミュニティの支援をすることです。